



公開シンポジウム

参加費
無料

知りたい!

ヤンバルクイナ保全の

最前線

日時 2022年 **12/3** **土**

13:00 ~ 16:20 (開場 12:30)

現地会場

国頭村民ふれあいセンター・ホール
沖縄県国頭郡国頭村辺土名 112

- ▶ 当日先着 80 名 (事前申し込み不要)
 - ▶ 現地会場は沖縄県内在住の方のみご参加いただけます
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によりオンライン開催のみとなる可能性がございます。詳細は下記ウェブサイトにてご確認ください。

オンライン配信

当日 Zoom にてライブ配信を実施
後日のアーカイブ配信はございませんのでご注意ください

- ▶ 配信の視聴には事前にお申し込みが必要です
- 下記 URL または二次元バーコードより申し込みフォームにアクセスし必要事項をご入力の上お申し込みください。
ご入力いただいたメールアドレスに視聴用 URL をお送りいたします。



← 配信視聴のお申し込みはこちらから
<https://forms.gle/b5Ub6avHAB4kiHFg8>
事前申込締切: 2022年 11月 26日(土)

お問合せ先

公開シンポジウム実行委員会
メール: env42101-contact@googlegroups.com



← 変更がある場合はウェブサイトにてお知らせいたします
http://web.cc.iwate-u.ac.jp/~takehito/erca_4-2101/



プログラム

(敬称略)

開会のあいさつと趣旨説明 村山 美穂 (京都大学)

第 1 部 ヤンバルクイナ保全の現状

「ヤンバルクイナの発見から絶滅回避への道程」
尾崎 清明 (山階鳥類研究所)

「ヤンバルクイナ保護増殖事業の取組状況について」
吉川 紀愛 (環境省 やんばる自然保護官事務所)

質疑応答①

休憩

第 2 部 本プロジェクトでの取り組み

「ヤンバルクイナの飼育下繁殖 -野生復帰をめざして-」
中谷 裕美子 (NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄)

「交通事故にあったヤンバルクイナから分かること
-国立環境研究所におけるヤンバルクイナの保全活動-」
大沼 学 (国立環境研究所)

「ヤンバルクイナの精子保存と人工授精への挑戦」
金子 武人 (岩手大学)

経過報告: 「DNAからヤンバルクイナの年齢を知る」
鈴木 彩月 (京都大学)

経過報告: 「行動とホルモンからヤンバルクイナの繁殖特性を知る」
山根 美子・大塚 亮真・木下 こづえ (京都大学)

質疑応答②・総合討論

閉会のあいさつ 長嶺 隆 (NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄)

知りたい!

ヤンバルクイナ保全の最前線

ヤンバルクイナは沖縄のやんばる地域のみで生息する日本で唯一の飛べない鳥で、1981年に発見されました。一時期は個体数が激減しましたが、マングース対策など生息域内での保全と、飼育下繁殖などの生息域外での保全の両輪で様々な保護対策を行った結果、生息数が回復しつつあります。2021年には国頭村を含むやんばる地域が世界自然遺産に登録され、ヤンバルクイナは豊かな自然環境の象徴としても注目されています。

私たちは昨年度から環境研究総合推進費の委託を受けて、ヤンバルクイナのゲノムやホルモンの情報を集めると共に、精子や卵子の保存条件を検討する研究を開始しました。本シンポジウムでは、野生下での研究と平行して進めている、こうした「生息域外保全」の最先端の取り組みをご紹介します。



講演要旨

第1部 ヤンバルクイナ保全の現状

ヤンバルクイナの発見から絶滅回避への道程

尾崎 清明 (山階鳥類研究所)

1981年やんばる地域で発見・記載されたヤンバルクイナは、まもなく主に外来種マングースの影響で絶滅が危惧される状況となった。そのため、多くの関係者が、絶滅回避への努力を進めてきて、緊急状態ではなくなったものの、はたしてこのままで、ヤンバルクイナの将来は安泰といえるのか？

ヤンバルクイナ保護増殖事業の取組状況について

吉川 紀愛 (環境省 やんばる自然保護官事務所)

2004年から開始し、飼育下繁殖事業や野生復帰試験などに取り組んできたヤンバルクイナの保護増殖事業。事業開始から18年を迎え、今、ヤンバルクイナを取り巻く状況から現在の保全活動の全体像についてご紹介いたします。

第2部 本プロジェクトでの取り組み

ヤンバルクイナの飼育下繁殖-野生復帰をめざして-

中谷 裕美子 (NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄)

生息状況が著しく悪化した2006年に開催された国際会議で2021年頃の絶滅が予測されたヤンバルクイナ。絶滅回避のために開始したヤンバルクイナの飼育下繁殖や野生復帰訓練の取り組みを紹介します。

ヤンバルクイナの精子保存と人工授精への挑戦

金子 武人 (岩手大学)

人工授精は、ヤンバルクイナなど繁殖の機会が限られる希少な野生動物の個体数を回復させることができる有効な手段です。現在、ヤンバルクイナの精子を採取・保存し、これらの精子を人工授精に応用する研究を進めており、その取り組みについて紹介します。

交通事故にあったヤンバルクイナから分かること-国立環境研究所におけるヤンバルクイナの保全活動-

大沼 学 (国立環境研究所)

国立環境研究所は2004年から交通事故などで残念ながら死亡してしまったヤンバルクイナを積極的に受け入れ様々な研究を行ってきました。今回は、死亡してしまったヤンバルクイナからどのようなことが分かるのか紹介したいと思います。

経過報告：DNAからヤンバルクイナの年齢を知る

鈴木 彩月 (京都大学)

個体の年齢を知るとは、保全を進める上で重要な情報になり得ると期待されます。DNAの情報からヤンバルクイナの年齢を推定する取り組みについて紹介します。

経過報告：行動とホルモンからヤンバルクイナの繁殖特性を知る

山根 美子・大塚 亮真・木下 こづえ (京都大学)

ヤンバルクイナの繁殖生理はあまり知られていません。雌雄の行動変化やホルモン変化から本種の繁殖特性を明らかにする取り組みについて紹介します。

